



ポストから新聞を持って帰ることが忍さんの朝一番の仕事です。

何気ない日常が幸せ。 四季の移ろいと共に一歩ずつ人生を紡いでいきます。

菊池 忍さん 昭和18年生まれ 73歳 / 岩手県久慈市出身

私の小径

菊池忍さんは岩手県で生まれ、父親の仕事の関係で中学3年生の春にむつ市金曲に引っ越してきました。高校卒業後は宮林署に就職し、仕事一筋で定年まで勤めた忍さん。退職後は「むつ松木屋」の中にある、妻の夏榮さんが経営するお店の隣に小さなコーヒーショップを構えました。しかし、夫婦で協力し合いながら第二の人生を歩み始めようとした矢先の2009年、仕事中に階段で足がもつれ、転落してしまいました。右半身に力が入らず不自由になり、歩行も不安定になりましたが、もともと病院嫌いもあってなかなか病院に行きませんでした。夏榮さんのやつとの説得によって受診したのは階段の転落から1年半後です。診断の結果、脳梗塞が見つかり、階段からの転落も脳梗塞によるものだと分かりました。

「その時はただ痛かっただけだった。すぐに病院に行っておけば良かったと今なら思うよ。」夫婦で話し合った結果、治療に専念するため、コーヒーショップを閉めることにしました。その後、自宅にこもりがちになってしまった忍さん。心配する家族から介護保険サービスの利用を勧められ、2013年11月より「みちのく中央デイサービスセンター」を利用し始めました。「みちのく中央デイサービスセンター」が「みちのくデイケアセンター（1日型）」へ移行してからは週2回利用し、歩く練習などリハビリに励んでいます。結果、家の中であれば杖を使わずに歩けるまでになりました。忍さんの現在の目標は、一人で家の周りを散歩できるようにすることです。これから暖かくなるため、外を歩いて季節を感じ、ゆくゆくは大好きな釣りが出来るまでになりたいと考えています。「今の時期は何が釣れるかな？」と忍さん。

また、目標が達成できた時には、リハビリを頑張ったご褒美として、宮城県仙台市に住んでいる孫の所に夏榮さんと二人で会いに行こうと楽しみにしています。「歩く時足を広げて歩けば大した良いんだ。ただ、やってみるけど、なかなかうまくいかないもんだ。」と笑いながらリハビリで教わった歩き方を自宅で実践し、練習の成果を家族に得意気に見せます。こういう平穏な日々が夫婦にとっての幸せです。これからも小さなことから一歩ずつ、日々を積み重ね、夫婦二人で第三の人生を歩んでいきます。

記 / 松山 夕紀

第2回 食と農と福祉の連携 特別講演 食と栄養と健康にまつわる深い話

講師 金谷節子氏

2016年5月14日(土)

場所 / みちのく金谷デイサービスセンター

開場 / 17時

講演時間 / 17時45分から19時まで

金谷節子氏は、全国に先駆けて病院給食に真空調理を採用し、画期的なアラカルトメニューを実現した管理栄養士です。一人ひとりの患者さんの病状に合わせた食事サービスを提供することで、病院給食を楽しめ、選べる食事へと転換しました。数十年前から嚥下食の普及に尽力され、その実践力をもとに、全国の病院・施設給食関係者の指導者としても活躍しています。2008年に「みちのく金谷デイサービスセンター」を開設した際には、当法人の給食システムに真空調理を導入するにあたって様々なアドバイスをいただきました。また、オーブンイベントの一つとして開催した「みちのく福祉公開講座」では嚥下食のレベルに合わせた食事を分かりやすく解説していただきました。特にその場で調理し、試食した「ちらし寿司」は、見た目も味も、嚥下食とは思えないほどの美味しさでした。

今回の講演は、専門分野の真空調理、嚥下食のお話にとどまらず、医療的視点からの「認知症を改善する可能性のある食」の話や、今までの長年の実践経験をもとにした治療食分野・介護食分野の最先端のお話です。

私たちが今まで「知った気になっていた」情報や知識は、覆されるかもしれません。どうぞ、たくさんの方のご来場をお待ちしています。

●金谷節子(かなやせつこ)氏
金谷栄養研究所 所長 / 管理栄養士 / 健康運動指導士
・病院食、施設給食の先駆者。
・嚥下食分野のカリスマ管理栄養士。

▼会場案内図

●みちのく荘メディカルケアセンター
●特別養護老人ホームみちのく荘

至 田名部
至 大湊

国道 338 号線

みちのく金谷デイサービスセンター

○下北文化会館



数量限定!!
真空調理品の試食&販売コーナー
講演会場の開場と同時に、真空調理品の試食コーナーもオープンします。
また、講演終了後には販売も行いますので、お誘い合わせの上、ぜひお越しください。

やさしい街づくりを応援しています。

まるめる奨学金(一般・専門職育成奨学金制度)を利用しませんか?

当法人では、卒業後に当法人の経営する事業所に勤務する意志がある学生へ、奨学金の貸与を行っています。

利用希望、詳細はお問い合わせください。

《対象》
大学生、短大生、専門学生、高校3年生等

《貸与額》
①、各国家資格取得(介護福祉士/理学療法士/作業療法士/言語聴覚士/看護師)を目指す学生:月額5万円
②、①以外で学業が優秀な学生:月額3万円

《問い合わせ》
社会福祉法人 青森社会福祉振興団
人材部:人材セクション
TEL / 0175(23)1600

ENEOS グローブエナジー株式会社
URL http://eg-energy.jp/
むつ支店: むつ市南赤川町10-27
TEL 0175-22-8320

谷川環境衛生開発(株)
代表取締役社長 谷川 聡
本社: むつ市新町 41-1
TEL. 0175(22)2659 FAX. 0175(22)7783
フリーダイヤル 0120-12-2659

快適な環境づくりのお手伝い

○介護用品のレンタル・販売
(車いす・ベッド・リハビリ機器他)
○住宅改修

株式会社 シルバーサービス
〒035-0033 むつ市横迎町 2-9-13
TEL 0175-22-9511

ハイイの日記



出身地 ベトナム社会主義共和国 ハーイズオン省ナンサク市 (ハノイ市から車で1時間半)
趣味 スポーツ全般/カメラ

私は特養みちのく荘の元町で、利用者さんが毎日楽しく生活できるように頑張っています。外国人の自分にとって、日本での生活にストレスを感じることありますが、利用者さんの笑顔を見るとストレスが無くなり、明るい気持ちになることができます。みちのく荘に来てから半年以上が経ちましたが、まだまだ知らないことがたくさんあります。しかし、職場の仲間が仕事のことや日本での生活についてアドバイスをくれるので、だんだん日々の生活も楽しくなってきました。この間は、地図を調べてバスに乗って一人で大畑町まで行き、お寺でお参りをしました。これからは日本での生活を楽しくしながら、仕事も頑張りたいと思います。

●ハイイさんの自筆です。

フアンライー・ハイイさん(通称ハイイさん)はベトナムとのEPA(経済連携協定)第2期生として、昨年6月に来日したベトナム人介護福祉士候補生の一人です。

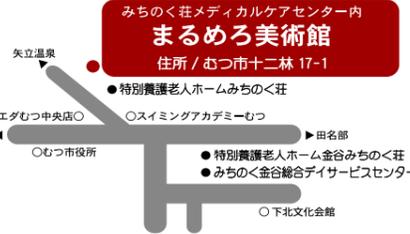
とても活動的なハイイさんは、休日には地図で道を調べ、趣味の写真を撮りに一人で出掛けます。4月の誕生日には、東京に行って同郷の友人と会い、ベトナム語で歌えるカラオケに行ったり、お花見をしてリフレッシュしてきました。アクティブなハイイさん。今日も故郷に暮らす家族の事を思いながら仕事に励みます。(編集委員)

関野準一郎記念 まるめろ美術館ご案内

こうげい展

一 関野準一郎・北海道の追憶 一 期間/2016年6月3日~2016年9月27日

開館時間/10:00~16:00 休館日/水曜・木曜・日曜・祝日・年末年始



厳島(着物)/廣田麻佑子

みちのく荘ケアサービス公開競技大会「まるめろ杯」結果報告

私たちの本来の商品は「介護」です。しかし、度重なる介護報酬のダウンや、介護業界の人材不足から、仕事に対する社会的評価の低さが、少なからず現場で働いている介護職員たちの誇りを奪っていつているのではないかと感じていました。ここ数年の法人のデータ(1人当たりの売上)からも、一人一人の能力アップを図らなければ「介護」が商品として成り立たなくなる危険性を見せつけられました。楽しく学び、専門職としての誇りを取り戻すための企画の一つとして、3月4日、「みちのく荘ケアサービス公開競技大会まるめろ杯(事業所対抗)」を開催しました。競技の課題は過去の介護福祉士実技試験に出題された問題から3つ選択しました。各事業所の代表選手たちは事前に公表された課題を練習し、大会当日にクジをひいて課題に挑みます。当日までの問題が当たるか分からないため、全問しっかり練習してやる必要がありました。また、事業所単位で代表者を選抜するため、代表決定後もチームでの練習は欠かせません。優勝者(まるめろキング・クイーン)には、賞金と、副賞として特別休暇3日間と函館の旅が贈られ、優勝者輩出の事業所にも賞品が授与されます。まるめろキング・クイーンを目指すそのプロセスに重きを置き、チームで取り組めるような企画にしました。大会当日、会場には代表選手が所属している事業所の職員が手作りの応援グッズを持って駆けつけ、他施設からの見学者や学生の姿も見られました。審査員は下北介護福祉士会会長の小笠原悟氏や法人OBの木村マキ子氏、法人職員の看護師や理学療法士といった専門職、サービスを利用する側の代表としてオンブズマンやみちのく荘家族会にも依頼していただきました。最終的に、職員たちの競技大会へ向け毎日練習に励む様子は生き生きとしており、これを機に切磋琢磨していくことができ、介護の社会的地位の向上と、専門職としての誇りを取り戻せると確認ができました。今後は介護だけでなく、看護師や事務員、調理、リハビリなどの職種でも企画し、みちのく荘全体のケアサービスの底上げを図っていく予定です。まるめろ杯は、どなたでも入場できる公開競技です。開催の際はまるめろ通信やホームページでお知らせしますので、ぜひ一度お越しください。



第1回まるめろ杯優勝者(まるめろクイーン)は、みちのく訪問介護ステーション所属の杉山千明ヘルパー(写真左)でした。右片麻痺で全ての動作が一部介助、意思表示は頷くのみという方の介助に挑戦しました。



尊厳は守られているのか・安全安楽な介護か・自立支援はできているか等の項目や、モデルの評価(心地よさ)によって審査されます。

習してやる必要がありました。また、事業所単位で代表者を選抜するため、代表決定後もチームでの練習は欠かせません。優勝者(まるめろキング・クイーン)には、賞金と、副賞として特別休暇3日間と函館の旅が贈られ、優勝者輩出の事業所にも賞品が授与されます。まるめろキング・クイーンを目指すそのプロセスに重きを置き、チームで取り組めるような企画にしました。大会当日、会場には代表選手が所属している事業所の職員が手作りの応援グッズを持って駆けつけ、他施設からの見学者や学生の姿も見られました。審査員は下北介護福祉士会会長の小笠原悟氏や法人OBの木村マキ子氏、法人職員の看護師や理学療法士といった専門職、サービスを利用する側の代表としてオンブズマンやみちのく荘家族会にも依頼していただきました。最終的に、職員たちの競技大会へ向け毎日練習に励む様子は生き生きとしており、これを機に切磋琢磨していくことができ、介護の社会的地位の向上と、専門職としての誇りを取り戻せると確認ができました。今後は介護だけでなく、看護師や事務員、調理、リハビリなどの職種でも企画し、みちのく荘全体のケアサービスの底上げを図っていく予定です。まるめろ杯は、どなたでも入場できる公開競技です。開催の際はまるめろ通信やホームページでお知らせしますので、ぜひ一度お越しください。

まるめろ公文書館

シリーズ⑥ めろめろちゃんについて

今では当法人のマスコットキャラクターとして、顔なじみになっている「めろめろちゃん」。誕生したのは2010年ですから今年で7年となります。

当時は、金谷の法人所有地に新規事業を立ち上げるため、職員によるプロジェクトチームが発足し、様々なアイデアを基に具体的な事業の立案を模索中でした。その際、職員からの法人オリジナルの「ゆるキャラ・マスコット」をデザインし、グッズ等に商品化して売り出せないかとのアイデアから派生したキャラクターです。

元々は、初代理事長(故中山久司)がこよなく愛し、1975年法人初の社会福祉施設としてむつ市城ヶ沢に開設した特別養護老人ホームみちのく荘の敷地内に植樹された、「まるめろの果樹」をモチーフにした法人のシンボルマークから進化したマスコットキャラクターです。

この「まるめろの果樹」は、「花や実が美しい樹の下には、いつのまにか道ができるように、わたしたちの目指している施設も、だれもがやってくることができ、親しみのあるものになりたい。」との深い願いが込められています。

大人?子供?男性?女性?年齢?すべてがミステリアスで、また見た目は「きまかわ!」のキャラクターとして、これからも法人内や地域のイベントで活躍していきたいと考えています。たくさんの声援をお願いします。



やさしい街づくりを応援しています。

Advertisement for Nissyo Co., Ltd. featuring various cars and contact information.

Advertisement for Nissyo Co., Ltd. featuring a building and contact information.

Advertisement for Nissyo Co., Ltd. featuring a building and contact information.

Map of the Michi no Kura Juchirin area showing various facilities and locations.